

バラード神父とエマウス友の会

友の会会員 永井 紋子

エマウス運動の生みの親、バラード神父様は、

一九一四年四月二十六日、フランス生まれ、

一九三九年六月二十九日、司祭叙階、

一九五十年十月十一日、来日されました。

教会で司牧活動を行って来られ、敗戦の混乱期に最も困っている人達の為に、何をなすべきかと考えられて、神戸の生田川沿いに居を定め、困っている人々を集め、廃品回収をしながら暁光会と名づけて共同生活を始め、労働司祭として働き始められましたのは、一九五六年で、これが日本でのエマウス活動の始まりです。

それから大阪支部(大阪市西成区)、ひかり保育所(同所)、あかつき特別養護老人ホーム(箕面市)等を開設されました。

更に、韓国、スリランカ、フィリピン、ベトナム、カンボジアに於いてアジアエマウスを創設され、各地を度々訪れ、実情を見て必要な援助をされました。

長年、理事長として貢献されました。

エマウスの仲間には、階級意識や政治、宗教を乗り越えて奉仕する精神が大切です。

バラード神父様のこのエマウス運動の趣旨に心を共にし、神父様の活動を支えるために生まれたのがエマウス

友の会です。

「生きることは、愛することである」というエマウス精神を基礎に、自分達よりも困っている人々の為に、少しでも役に立つ働きをしたいと願う人々が集まりエマウス友の会は、一九六八年に会長長谷川高敏氏を迎え発足しました。男女十数名の会員が集まりました。

会員達は、物品提供、能力提供、金銭提供等をして、エマウス活動を物心両面から援助することで、お互いに自分達の出来る範囲で奉仕する気持が精神的な援助で、その働きによつて得られた収益が物質的な援助となります。

まずエマウスバザーが計画、一九七一年に神戸さんちか広場で第一回のバザーを催しました。

当時は、大勢の若者達の力が集まり、東京エマウスのシスターや、前橋あかつきの村の石川神父様も若者を連れて応援に来て下さったり、神戸阪神間のカトリック教会の方々の協力も得て、大盛況の三日間でした。

そのエマウスバザーも二〇〇九年十一月で三八回を重ねました。

時代の推移で現在は大変厳しく、働き手も物品寄贈も大きく減少しましたが、エマウスバザーは、震災の復興もまだ遠い時期の一九九五年十一月より神戸暁光会に於いて開催致し、一九九六年以来、二日間開催となりました。

又、友の会のニュースの発行（年二回）をして、二〇〇九年十一月で五四号に達しました。このニュースにより、日本各地から趣旨に賛同して寄付金、物品が寄せられます。（次頁に、友の会ニュースを掲載しています）そして又、援助金を得るために、会員達は試行錯誤を重ねております。

毎月第二・第三水曜日に、暁光会に於いてミニバザーを開いて居ります。

その他、随時に会員宅等でのガレージセール、バイブルハウスでのバザーに協賛して出品して居ります。

友の会賛助会費は、年二〇〇〇円です。

エマウス友の会の婦人達にも高齢化の波は容赦なく押し寄せてきて居ります。経済危機や種々の問題を抱えた厳しい時代ですが、お互いの理解を深め、我々を取り巻く現実をしっかりと受けとめながら、会員達は、各々の分に応じて力を（本当に小さな力ですが）出し合って支え合いながらバラード神父様の示された道を歩んで居ります。

陰で支えて下さって居られる多くの方々にも心からの感謝をこめて、どうぞ今後共、私達を温かく見守って下さいますように。

己を捨て、心血を注いだエマウス運動のために尽くされたバラード神父様は、二〇〇九年二月十七日に九十四歳の生涯を安らかに閉じられて神の御許に召されました。

この世で神父様の並々ならぬ愛のお働きに対して、神様が沢山お報い下さって、天国で安らかに憩われて居られましょう。そして私達を何時迄もやさしく見守って力ずけて下さる様にと祈りながら、エマウスの精神を心の糧として、微力ながら会員同士力を出し合って歩んで参りたいと願って居ります。



アジアエマウス友の会、暁光会理事会との新年会